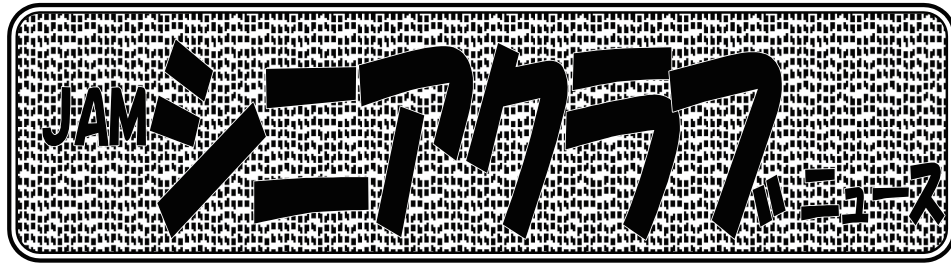


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本屋内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

第226号

発行日 2026年10月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

退職者 連合

2026全国高齢者集会開催

全国から1200人が集う



千葉、埼玉の会員25人が
参加しました。

9月15日、東京・文京シ
ビックホールで「2026
全国高齢者集会」が開催さ
れました。全国から120
0人が結集、JAMシニア
クラブからは東京、神奈川、

千葉、埼玉の会員25人が
参加しました。

静観しているわけにはい
かない。私たちはひとり
ひとりを大切にして、平
和を求め、活動してい
く。笑って過ごせる社会
を私たちの声で築いてい

こう」と訴えました。
来賓の連合神保事務局
長、中道改革連合(当時)
小川淳也代表、立憲民主
党森本真治参議院議員、
国民民主党小林さやか参
議院議員、社会民主党ラ
サル石井参議院議員、
公明党宮崎勝労働局長の
挨拶があり、その後、政
治ジャーナリストの星浩
さんから「どうなる世界
と日本」と題しての講演
がありました。星さんか
らは波乱の国際情勢、デ
ジタル・AIの進化、高
市政権の動向と政策課題、
野党はどう向き合うかな
ど国内外の政治情勢につ
いて様々な角度からのお
話を頂きました。

最後に、核兵器廃絶に
向けた活動を続けている
会員の声で締めくくられ
た。

京都

定期総会を開催

伊藤忠男 通信員

9月25日京都労働者総合
会館において2027年度
の定期総会を開催しました。
役員11名・代議員27名が
出席、木村会長の挨拶に続
き、石川県から遠路ご出席
いただいたJAMシニア宮
本会長から「JAMシニア
会員が減少する数よりはる
かに多数の未加入JAM組
合員OBの入会を実現して
会員拡大を図る」との力強
いご挨拶をいただき、大会

議長中藤一雄さん(島津退職
者組合)の議事進行で過年度
経過・決算報告、新年度の活
動方針・予算について審議し
ました。

提案確認された活動方針は、
①JAMシニアクラブの「四
つの理念」「五つの活動指針」



〈裏面に続く〉

主張



いつまで経っても「ついに来たか」と思いたくても思えないのが世界平和だ。太古から、人類は傷つけ殺し合ってきた。人類の歴史はまさに戦争の歴史だ。戦争は人類の宿命であると悟ったようなことは言うまい。

私たちはどんな状況

2月に行きつけの床屋に行った時、店主から天辺は刈りませんよと言われ「ついに来たか」と思った。5月に社友会のゴルフコンペで赤ティーから打つことになり「ついに来たか」と思った。次に「ついに来たか」と思うのは、転んで大股骨を骨折した時だろう。

更に、「ついに来たか」と思うのは、痴呆症で徘徊を始めた時だろう。もともと、その時は本人に自覚がないから周囲が「ついに来たか」と眉をひそめるに違いない。

いつまで経っても「ついに来たか」と思いたくても思えないのが世界平和だ。太古から、人類は傷つけ殺し合ってきた。人類の歴史はまさに戦争の歴史だ。戦争は人類の宿命であると悟ったようなことは言うまい。

下でも、世界平和を高らかに歌い上げてきた人々を知っている。つとに有名なのがベートーベンの交響曲第九番の第四楽章「歓喜の歌」のドイツ人作詞家シラーだ。シラーは、第九の中で、何度何度も人類は皆兄弟、世界は一つと歌い続ける。これはベートーベンとシラーが、人類に残した平和に向けてのメッセージだ。今も世界は分断されたままで、人類は皆兄弟、世界は一つから程遠い。

「ついに来たか」 香川シニアクラブ代表幹事 水野 惇

年末に日本各地で「歓喜の歌」が歌われる。日本人ほど第九の好きな民族はいないと思う。その第九が日本で初演されたのが、1918年6月1日、現在の鳴門市にある板東という小さな村であった。この初演から100年を記念し、2018年4月から6月にかけて、鳴門市で、

盛大に記念行事が行われた。最後のメロディは勿論第九。ドイツ人も含めた大合唱団が「喜びの歌」を高らかに歌い上げた。
板東に作られた俘虜収容所に第一次世界大戦のドイツ人捕虜千名余りが送り込まれてきた。俘虜収容所の所長は元会津藩士松江豊寿。松江は「俘虜は犯罪者ではない。彼らも祖国の為に立派に戦ったのだから、武士の情けをもって遇したい」をモットーに収容所を運営した。俘虜は収容所内にボーリング場を作り、サッカーを楽しむ、村民と交流をし、村民にパン作りや西洋野菜の栽培も教えた。そんな中で俘虜45名が楽団を結成し、1918年6月1日に村民と俘虜を前に第九を演奏したのであった。彼らは、ここで2年半ほど暮らし、故郷へ帰っていった。俘虜が去った収容所に、平和の花言葉を持つコスモスが芽吹き、秋には色とりどりの花が咲き乱れたと伝えられている。「ついに来たか」平和！いつになることやら？

〈表面から続く〉

- を前提に活動を進める。
 - ②軍事侵攻の即時完全停止・物価高騰対策を中心とした政策制度要求の取組。
 - ③高齢者にとって関心の高いテーマを取り上げた「政策研修会」の開催。
 - ④2028年参議院選挙「村田きょう議員」推薦・応援の活動。
 - ⑤JAM京滋各労組と連携した会員拡大の取組。
 - ⑥囲碁、将棋、グラウンドゴルフなど交流行事の取組。
- これら活動方針と新年度予算を満場一致で採択。木村正次会長の「がんばろう」で総会を締めくくりました。

大阪 定期総会を開催

原正巳 事務局次長



大阪シニアクラブは、9月26日、JAM西日本会館で会員、役員、来賓、現役

書記局員含め、48名の参加で、中間年の第26回定期総会を開催しました。

総会は、新加入のNTNの今田さんを議長に選び、清水代表幹事の挨拶、来賓として、JAMシニアクラブ箕浦副会長、大阪退職者連合松本会長、JAM大阪木村書記長、組織内議員団大津枚方市議、近畿労金天羽本部長、こくみん共済COOP上野本部長から挨拶を受けました。

JAMシニアクラブの箕浦副会長は、「高市首相は笑顔絶えないが鬼のような政策を進めている。ガソリン補助より公共交通機関を使えというべき。戦後日本の平和政策は、今、危機的状況だ。シニアクラブの仲間を増やし、村田きょうこ必勝含め、選挙に勝ち、日本の危険な流れを変えよう」と呼びかけました。

JAM大阪の木村書記長からは、「組織の基本である単組の強化に向けて、対話活動の推進、職場討議の充実、単組間切磋琢磨のためのブロック会議の強化を目指し、OBの皆さんとの対話も行っていきたい」と報告されました。

その後、議案審議に入り、活動報告と活動計画、決算と予算の提起が行なわれ、賛成多数で全体確

認されました。

活動計画で強調されたのは、次のとおりです。

- ①高市内閣は、「国旗損壊等処罰法」「国家情報会議設置法」等、「国家の権威」を「個人の尊厳」よりも優位におき、戦後の平和主義と基本的人権を否定・軽視する政策を強引に進めている。
- ②国民生活に関わる課題は一切後回しにされている。
- ③日本の軍事政策を大転換させた「安保3文書」のさらなる改訂、GDP3%への防衛費の拡大、「非核三原則」の改定、憲法9条の改定と戦時の緊急事態条項の新設が画策されている。
- ④今こそ、組織を拡大し、組織内議員、退職者連合、連合と連携を強化し、年金・医療・介護など政策制度要求の取り組みを強化しよう、など。

最後に、清水代表幹事の発声で「がんばろう」を三唱し総会を終了しました。

総会に先立ち、研修会として松崎孔大阪市議より「3度目の大阪都構想―何が問題か」の報告を受け、維新の会がゴリ押ししている「大阪都構想」は、「大阪市廃止Ⅱ市民へのサービス後退」でしかなく、反対するとの意思を固めました。

千葉 定期総会を開催

蝦名秀信 通信員



千葉シニアクラブは定期総会を2026年10月9日千葉市中央区の「ホテルポートプラザちば」で開催しました。当日は、「千葉豪雨」と命名された天候と異なり、久しぶりの快晴でした。参加人数は来賓含めて41名が参加しました。なお今回は「結成25周年記念祝賀会」も合わせて開催されました。

私たちのとりかこまれしている現状は「千葉豪雨で災害を受けた」「物価高の生活苦」高市内閣の圧政など参加者全員が共有できたと感じました。千葉シニアクラブは「重点目標として会員拡大10%」も総会で確認できたとおもいます。来賓挨拶で、大きな元気をもらい、

ありがとうございました。現状打破で「団結ガンバロー」のスタートが、できた良き1日と感じられました。

新潟 定期総会を開催

清水弥一郎

新潟シニアクラブは、10月1日（木）第25回定期総会を長岡市魚藤で開催しました。シニア9組織、現役4単組、合わせて37名が参加しました。冒頭、来賓のJAMシニアクラブ宮本礼一会長よりあいさつを頂き、日頃の活動のお礼、全国シニアクラブの現況を共有しました。



今総会では、向こう1年間の活動計画、組織拡大のお願い、予算など全ての議案が可決・承認されました。参加者は「普段なかなか会えない。昔の組合の仲間会えるのを毎年楽しみにしている」と話していました。

香川 定期総会を開催

水野惇 代表幹事

香川シニアクラブ第23回定期総会を10月16日11時30分、大渚亭において開催しました。会員拡大の取り組みや第28回参議院選挙に出馬予定の村田きょうさんの推薦を決定しました。総会終了後の懇親会で瀬戸内料理に舌鼓を打ち、旧交を温めました。参加者の近況報告の後、来年の総会での再会を約束し、散会しました。

